

# フィールド風

(現場)からの

宮田守男

大北地域の南部から桜が咲き始めた。厳しい冬を経なければ花が咲かない。「休眠打破」の代表と呼ばれる桜。桜の花芽は夏に形付け

られた後、一旦休眠し、冬の寒さで目覚めて成長が始まることから「休眠打破」と呼ばれている。コロナ禍は、変異株ウィルスの脅威もあり終息が見通せないが、感染対策を徹底して、オリンピックで活気あふれる日本を期待せずにはいられない。

も七十回くらいだが何時も心が弾む。母から野菜栽培を学んだとき、野菜の種まきは「桜が咲くときが適期」との教えが、今年もおいしい野菜栽培をの希と、待ち遠しい桜の開花の期待と重なるのだろう。

年より4つ順位を上げたが56位だ。手法や調べる項目にも疑問が指摘されているが、6項目の判断基準の内「人生を選択する自由度」「相手を受け入れる寛容さ」の2項目で上位国を大きく下回った。

親睦の機会が激減している現状が、これからの社会生活に悪循環をきたさないよう祈るばかりだ。オリンピックで日本の素晴らしさを世界に発信して、今後のインバウンドの活性を期待

## 当たり前前の日常を魅力ある観光資源にする積み重ねが必要だ

「人とのつながりの美感」「温かい人間関係の構築」が日本には大切だと多くのメディアが伝えた。確かに最近の日本の出来事には、思いやりに欠ける行為が相次いでいる。コロナ禍から、人間同士の

は、継承も大切だが、作り出す情熱も大切だ。その年月を積み重ねれば、全国にも誇れる観光資源になるはずだ。(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



穀物の豊作は、花卉の数が多いとされる「コブシ」。今年も期待できそうだ